
ワタシとボク

吟遊詩人 涼一

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ワタシとボク

【Nコード】

N5033V

【作者名】

吟遊詩人 涼一

【あらすじ】

ワタシはボクの心

ボクはワタシの体

ワタシはボクを

ボクはワタシを

愛せない

なぞなぞとくように

ワタシとボクは
すれ違い……

まだ太陽の匂いのする冷たいシーツの上
ボクの指先は赤く焦げる
擦り切れそうなボクの体は
朝の日の中に閉じ込められている

ワタシの心はボクの体の中に隠れて
こんなくならない世界みたいだ　だんだん腐っていく
だんだん強くなっていく

僕は形を持つけど　心が無くて
ワタシは心を持つけど　形が無い
いつになったら本当のキミに
本当のアナタに　出会えるだろう

また太陽はしずみ
夜になると独り　悲しみさえ感じない
ボクの代わりにワタシが目覚めて　月が昇るよ

ぬかるんだ中にワタシをうずめて
アナタは手をかける
首に十の指　そして大きな手の平
声も出ない　出せない　出さない
ただ泥の向こうに　見えるその瞳を　見上げるだけ
アナタの体は優しい　その手も　瞳も

ワタシの心は冷たい

それでもボクはアナタの手を受け入れている
世界の終わりを祝福しているみたいだ
ほほえんで

アナタもボクも

ボクはその温もりを覚えてる
ワタシが顔さえ覚えていなくても
ボクの記憶はワタシよりもずっと鮮明で
ワタシで考えるより
ボクで感じていたんだね

年月隔てるごとに 素直になっていくボク
ワタシはこんなに怖くて 仕方がないのに
この汚い世界みたいに
中身は痛みを抱えているのに

絵本の中にある喜びが ボクの夢になって
汚い想いと一緒に ボクを慰めてくれる
悲しいワタシの涙の代わりに
濁った記憶だけが ゆっくり流れる

ただあたりまえにその背の
そばにいたいだけなのに
そんな小さな願いも叶わない
そんな世界 ボクごと壊してほしい
ボクの体を引き裂いて ワタシを助けてくれる
そんなキミに会いたい
姿は見えないけど
ボクはずっと宙ぶらりんに 誰かを探したまま

確かに姿を持つ君を
本当の優しさを持つアナタを

鏡に映る　　ボクを見る
もつと美しかったら　　世界はもつと　　広がっただろう
ワタシは美醜じゃ　　何も変わらないと信じたい
でもボクはワタシを好きでないし
ワタシはボクが大嫌いだ
キミがアナタを愛していても
アナタがキミを愛していても

ボクなんて早く　　いなくなればいい
でもボクの心がワタシであることを
ボクは嫌いじゃない
ワタシは弱すぎるから　　ボクが守っているんだ

もしもボクがボクだけになれたら　　どんなに楽だろう
でもワタシがあるのは　　ボクのおかげだから
ボクが無ければ　　ワタシは生まれていないから

形の無いものを　　命とは呼ばない
ボクがあるから　　ワタシは今　　命でいられる
心でいられる

夢が終わったとき
それは夢が叶ったとき？
目覚めたときの白いシーツは　　もつと冷たくボクを焦がして
ワタシはアナタを想い　　ボクはキミに恋する

ワタシは夢を見たまま ボクは体を抱きしめる

独り 涙を流す

腐敗していく視界の中で アナタを探している

ボクはもつと素直にキミを求める

どんなキミでも ワタシごとボクを愛してくれるならそれだけで
いい

ボクはキミにそう言いたい

ワタシはアナタにそう願いたい

（後書き）

読んでくださった方、ありがとうございます

短い詩なので小説家にはなれてないんですけど……

普段は物語もやりますが最近詩がけっこう好きなので、初投稿はこれにしました

詩と言っても、自由詩なので、詩っぽくないんですけど

読んでいただいた方は、良ければ感想をお願いしたいです。それから、もしも読んでくださった方の中に「ボクとワタシ」に困っている方がいたら……

ぜひ感想や「なぞなぞ」の答えなどお願いします

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5033v/>

ワタシとボク

2011年10月9日14時18分発行